芸

Faculty of Art and Regional Design

術地域デザイン学部

アート×アナタ＝∞

ここから、

新たな未来が始まる。

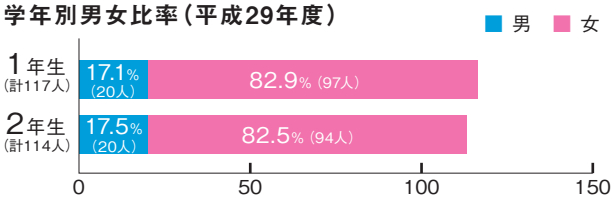
芸術地域デザイン学科

芸術表現コース → P.040
地域デザインコース → P.044

芸術表現・理論のみならず、地域史、国際関係、考古学、地理学、都市デザイン、異文化コミュニケーションなどを学び、芸術で地域と世界を拓きます。理系の学生も歓迎します。

本学部では、芸術を通して地域創生に貢献する人材の養成を行います。本学部でいう芸術とは、作品の創作やモノのデザインのことだけを指すわけではありません。すなわち、美術館や博物館における専門的な仕事や文化財の保護も芸術の範ちゅうに含まれます。また、現代では、まちづくりや地域おこしを担う自治体、マスコミ・ＴＶ局、企業、販売、観光などの場面や職種で、芸術的な視点が求められていますが、本学部ではそのような場で必要とされる芸術的な手法や感性を磨くことができます。つまり、本学部では人やモノを芸術や芸術的な手法によって繋ぎ、地域の活性化や国際化などに貢献する人材を養成します。作家、デザイナー、そして教員を志望する人への教育も熱心に行います。本学部で学べる専門分野は、芸術の表現や理論はもちろんですが、歴史、国際関係、考古学、地理学、都市デザイン、異文化コミュニケーションなど人文科学、社会科学の各分野にわたっています。

学年別男女比率（平成29年度）



主な授業紹介　4つの学部共通コア科目：学部の柱となる重要な科目です。

1 地域デザイン基礎・芸術表現基礎（1年次学部必修）

芸術表現分野と地域デザイン分野の多様な側面を学ぶ実習です。共同作業を多く取り入れ、授業の開講時以外の時間帯にも作業スペースを開放し、学生同士が触れ合い、議論し合う時間を多くすることにより、コミュニケーション能力や協調性なども培います。遺跡や各地のフィールドに出向き、現地で行う実習も組み入れます。

2 地域創生フィールドワーク（3年次選択必修）

学生がチームを組み、地域の地理や文化・芸術資源を継続的に調査し、フィールドワークの能力を育成します。地域の協力を得て、地域資源を活かした企画を地域の中に入って展開します。それらの活動を情報発信する手法も学びます。本授業を通して、地域創生のために必要な実践的な能力を修得します。

3 有田キャンパスプロジェクト（3年次選択必修）

本実習は、有田キャンパスの恵まれた施設環境の中で行われます。サイズの大きな作品制作が可能となります。出来上がった作品は有田町内で発表します。窯芸を専門とする学生はもちろんのこと、それ以外の領域を専門とする学生も、窯芸の表現や技法をつかって新しい作品制作に活かす機会となります。

4 国内外芸術研修（3年次選択必修）

国内外で行う研修です。芸術作品を生み出した歴史について学修し、歴史的遺物を生み出した環境に触れることで、芸術の歴史や作品について他者へ説得力をもって伝えることが出来るようになることを目指します。また、作品とその歴史的背景の関係を知ることにより、自身の作品の社会的機能について高い意識をもったり、技法や素材の扱いに習熟したりすることも本実習の目的です。

芸術表現コース

芸術でつなげる　芸術でつながる

本コースは、「美術・工芸」と「有田セラミック」の２分野で構成される、芸術の本質にふれ創造の世界を学ぶ場です。美術・工芸分野は佐賀大学美術・工芸教室、有田セラミック分野は有田窯業大学校が母体となり、2016年に設置されました。両分野に共通するのが、身体を通した制作活動によって培われる「手わざ」の伝統があることです。また、本コースでは、この「手わざ」を大切にしながらも、ただ単に絵が描ける、やきものが作れるということだけでなく、自らの活動をマネジメントし、現代の社会において広い視野を持って表現活動ができる発想力、行動力を養っていきます。

“芸術地域デザイン学部”は、芸術で地域をデザインする学部と読むことができます。アートの力を持って地域で何ができるか、芸術表現の専門性を生かし、地域の中で実践するカリキュラムが組み込まれています。そうした活動により、人と人、人と地域をつなげるアートの力やアートと社会とのつながりを学びます。高い専門性と実践力を持った人材を育成します。

教育目標

美術・工芸

「手わざ」を基礎にして、オリジナリティのある表現力を養成します。日本画、西洋画、彫刻、視覚伝達デザイン、漆・木工芸、染色工芸、ミクストメディアから適性に合わせて専門分野を選択し、表現や技術を学びます。描くこと、作ることを通した表現力の養成は、60年以上続く美術・工芸教室の伝統です。

有田セラミック

“やきもの”を産業・文化・表現・科学など様々な角度からとらえ、伝統的であると同時に革新を伴う、時代に強くアピールできるもの作りを探求します。有田窯業大学校から移行した国内最高クラスの施設環境の中で、国際的な陶磁教育とセラミック研究により、専門性の高い人材を養成します。

芸術表現コースで学ぶために必要な能力や適性等

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく３つの事を意識してください。１つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。２つ目は「理知」です。身の回りの現実に起こる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ、理知へと発展します。３つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

学生が語る!

芸術表現コースの魅力

学びのポイント

◎伝統工芸から最先端のテクノロジーまで、幅広い芸術表現を探求できる。
◎作品制作だけでなく、作品を流通させるマネジメントの知識が身につく。
◎本庄と有田、二つのキャンパスで学べる。
◎佐賀大学美術館で作品を発表。
◎教員免許、学芸員資格が取得できる。

芸術地域デザイン学部
芸術表現コース　2年
岩崎千万理
福岡県立新宮高等学校出身

個性を存分に発揮できる場所

表現コースに入って、ひたむきな姿で芸術に向かう先輩方と話をしたり、活躍されているアーティストを招いてのトークショーに参加したりして、私の中に新しい価値観や見方、発見がたくさん生まれました。そして自分も何か作りたいと強く思うようになりました。芸術は理解できないことがたくさんあります。そのわからなさをもってしても心が動かされる、私はそんな作品をつくりたいです。芸術を学べば学ぶほど、何とも面白い世界だと、きっと思うはずです。皆さんも自分の中のうずうずしたものを表現して、芸術の可能性を一緒に確かめましょう!

私の合格体験記

私が受験期を乗り越えられたのは、始発で学校に行く時の朝の匂いが好きだったこと、今までさっぱりだった問題が解けるようになっていく嬉しさ、そしてそこまでするかと思うほど必死に勉強する友達がそばにいて自分も負けてられないと思ったからです。頑張る理由はなんでもいいと思います。受験期という大変な時期の中に自分が頑張れる理由を見つけて、それを大切にして頑張ってください。

時間割のイメージ

	月	火	水	木	金
1	アートと科学	彫刻基礎	有明海学	日本国憲法	
2		彫刻基礎	心理学B	現代教育論	
3		ミクストメディアⅠa		知的財産権	中等美術科教育法Ⅰ
4		ミクストメディアⅠa		英語C	教育原理
5			図法		中等美術科教育法Ⅱ

先生からのメッセージ

柳　健司 教授
ミクストメディア

現代の美術は、従来の「美術」という既存の枠を超えて、多種多様な思想や様式によって展開されています。芸術にはこうでなければならないというルールは何もありません。そのような情況のなかで、表現者は自身で表現することの意義を見出さなくてはなりません。芸術表現コースでは、学生一人ひとりの表現技術や芸術的な感性を磨くことのみならず、芸術と社会の様々な活動とを結びつけ、現代社会に生きる表現者としての思考力や行動力を養います。

これからの時代を担う若い人達は、芸術の持っている様々な可能性を信じ、表現活動を追求し続けてください。この可能性を追求する行為は、文化を洗練させ、精神的に豊かな理想の社会を形成することにつながるでしょう。

取得可能な免許・資格

所定の単位を修得することにより、卒業時に資格が得られるもの

■中学校教諭一種免許状(美術)
■高等学校教諭一種免許状(美術)
■高等学校教諭一種免許状(工芸)
■学芸員

想定される進路

主な就職先

美術・工芸
●作家(画家、造形作家、工芸家、写真家)
●教員・美術教育者
●一般企業(製造、服飾、インテリア、広告等)
●舞台美術など

有田セラミック
●陶芸家、器作家、造形作家
●陶磁器デザイナー(陶磁器メーカー、陶磁器商社)
●伝統工芸士(ろくろ師・絵付師)
●ファインセラミック技術者
●販売(百貨店、陶磁器ギャラリー)
●公務員(伝統産業振興、やきもの関連等の部署)など

主な進学先

●佐賀大学大学院地域デザイン研究科
●東京藝術大学大学院美術研究科
●広島市立大学大学院芸術学研究科
●京都市立芸術大学大学院美術研究科
●富山大学大学院芸術文化学研究科

4年間で学ぶ授業

卒業単位	124

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目 共通基礎科目「英語」 共通基礎科目「情報リテラシー」 基本教養科目（自然科学と技術、文化、現代社会）	インターフェース科目		
専門教育科目 学部共通科目	**学部共通コア科目** ●地域デザイン基礎（デザイン、マネジメント、フィールドワーク） ●芸術表現基礎（絵画、彫刻、工芸） ●デザイン発想論 ●デジタル表現基礎 ●職業キャリア論 ●流通論 ●アートマーケティング ●文化経済論 ●アートマネジメント ●比較オリエンタリズム研究 ●Key Concepts in Art	●芸術文化・地域創生論（国内外地域プロジェクト事例研究） ●知的財産権学 ●地域再生デザイン学 ●アートと科学	**学部共通コア科目** ●有田キャンパスプロジェクト ●地域創生フィールドワーク ●国内外芸術研修	
専門教育科目 コース基礎科目	●芸術表現A（日本画、西洋画、彫刻） ●芸術表現B（窯芸、染色工芸、漆・木工芸） ●美術史基礎	●工芸理論 ●現代美術概論 ●美術品流通論 ●デザイン基礎 ●図法 ●材料学		
専門教育科目 美術・工芸		●日本画Ⅰ・Ⅱ ●西洋画Ⅰ・Ⅱ ●彫刻Ⅰ・Ⅱ ●ミクストメディアⅠ・Ⅱ ●染色工芸Ⅰ・Ⅱ ●視覚伝達デザインⅠ ●漆・木工芸Ⅰ・Ⅱ ●金属工芸Ⅰ ●日本画概論 ●彫刻概論 ●漆・木工芸概論 ●窯芸基礎 ●西洋画基礎 ●染色工芸基礎 ●製図 ●コンテンツデザインⅠ ●映像デザインⅠ ●情報デザインⅠ ●コミュニケーションデザイン論 ●コミュニケーションデザイン演習	●日本画Ⅲ ●西洋画Ⅲ ●彫刻Ⅲ ●ミクストメディアⅢ ●染色工芸Ⅲ ●視覚伝達デザインⅡ・Ⅲ ●漆・木工芸Ⅲ ●金属工芸Ⅱ ●西洋画概論 ●染色工芸概論 ●彫刻基礎 ●日本画基礎 ●漆・木工芸基礎 ●ミクストメディア基礎 ●地域ブランディング論 ●地域ブランディング演習 ●メディアアート論 ●メディアアート演習	●卒業研究
専門教育科目 有田セラミック		●陶磁成形技法Ⅰ・Ⅱ ●装飾技法Ⅰ・Ⅱ ●ロクロ成形Ⅰ・Ⅱ ●石膏型成型Ⅰ・Ⅱ ●石膏型成型特別演習 ●釉薬化学Ⅰ ●陶磁特別演習Ⅰ ●陶磁史 ●釉薬化学概論 ●セラミック原料化学 ●セラミック焼成 ●衣食住文化論 ●世界の中の肥前陶磁器 ●食と器	●陶磁成形技法Ⅲ ●装飾技法Ⅲ ●ロクロ成形Ⅲ ●石膏型成型Ⅲ ●陶磁特別演習Ⅱ ●陶磁技法特別演習 ●釉薬化学Ⅱ ●セラミック科学実験 ●セラミック科学演習 ●唐津焼演習 ●CAD/CAMⅠ・Ⅱ ●陶磁器産業論 ●陶磁マーケティング	●卒業研究

カリキュラムの特色

1年次に、地域デザイン基礎/芸術表現基礎（前期）、芸術表現A、B（後期）など広く芸術全般を学ぶ科目が設定されており、幅広い見識と柔軟な思考を身につけることができます。2年次からは、それぞれの適性に合わせて分かれる専門分野での実習科目が学びの柱となります。分野毎に、発想方法、技術修得、材料・歴史の知識などの基礎的な内容から、独自の表現へと繋がる応用的な内容まで、段階的に専門性を深めることができるカリキュラムが組まれています。

専門に分かれたあとも他のコース、分野の科目を履修することが可能で、専門を学びながらも学びの幅広さを保つことができます。作品を流通させる上で必要になる経済・経営の知識や、地域での活動を通して社会におけるアートの在り方などを学ぶことができます。

主な授業紹介

芸術表現A、芸術表現B

芸術表現コースの必修科目です。美術・工芸全体の基本を広く学ぶことを目的とします。芸術表現Aは美術分野である日本画、西洋画、彫刻について、芸術表現Bは工芸分野である染色工芸、窯芸、漆・木工芸について、それぞれの基礎的な知識や基本的な技能の習得を目指します。各分野を専門とする教員が工夫をこらし、入門的な内容を行います。経験がなく、興味のなかった分野について、新たな出会いを感じるかもしれません。2年次からの専門分野を選ぶ際の参考にもなる科目です。

デザイン発想論

学部1年生の必修科目です。芸術表現A，Bと合わせ、表現全般にかかわる幅広い基礎力の養成を目的とします。デザインの広義を理解したうえでデザインの考え方と道筋をたぐります。思考法・表現力・創造力を磨き、専門性・経験値の蓄積によってさまざまなコンテンツの発掘・企画につなげるための基礎を養成します。講義とともにグループ討議なども交え、実例を参照しながら具体的な課題へと接続していきます。メディアの種類と性質を理解しながら独創的な作品を完成させます。

陶磁マーケティング

「陶磁器」と聞くとどのようなイメージをもつでしょうか？「伝統のある」、「芸術的な」、「毎日使うもの」など人によって様々だと思います。本講義では、使う人、買う人の立場に立った「もの創り」という視点（=マーケティング思考）から「陶磁器」を考えていきたいと思います。本授業はPBL（Product-Based Learning 課題解決型学習）を導入し、受講生が陶磁業界の現状や窯業産業の抱える課題をみずから考え、その課題に対して新商品、あるいは既存商品の修正といった具体的な製品戦略を考えたり、マーケティング戦略を企画・立案したりすることによってマーケティングを理解し、実践できるよう講義を行います。

現代美術概論

映像、インスタレーション、パフォーマンスと、多種多様化する現代の美術。その歴史と表現は、世界の地理、文化、政治、宗教など、時代背景や地域特性を抜きに考えることはできません。本授業では、20世紀初頭から現在までのヨーロッパ、アメリカ、アジアにおける重要な現代美術の動向と作品を、作家たちの生きざまなどを交えながら概観し、表現の動機、発想の起点、表現方法等についての理解を深めていきます。また、日本における現代美術の動向と世界のそれとの差異や今日の美術が抱えている様々な問題や可能性について考察します。

▶▶▶研究室紹介

染色工芸

鳥谷　さやか　講師

染料は繊維の中に染み込み、滲(にじ)んでいきます。その「滲み」を防ぐ防染技法を用いることで、布に「かたち」を創ることが可能となります。染色教室では、蠟(ろう)防染技法や型糊防染技法、絞り技法などを中心とした作品制作を通し、染料や繊維等の素材や染色技法、意匠について学び、技術を修得していきます。それは自分が思い描くものを再現し、表現を行う上での基礎となるとともに、染色工芸とその他の平面表現との違いを学ぶことにも繋がります。染まらない部分を描くという間接的とも言える表現方法の中に、染色による平面表現の展開と可能性を追求していくことを目指します。

研究室･ゼミ一覧

視覚伝達デザイン　荒木　博申　教授

私たちは情報や知識の多くを視覚を通して得ています。それらは多様なメディアを介して素早く、大量に流され、社会や人々に大きな役割を果たしています。視覚伝達デザインでは、有益なコンテンツを選別・発見し、高い機能性と美意識をもって的確に伝えるための心と技と知識を実践の中から修得していきます。そのために必要なプロセスを幾度となく実践し、その中から真のデザインマインドを身につけることは、大人として何にも勝る武器になるはずです。

彫刻　徳安　和博　教授

彫刻は、形をただそっくりに作る芸術ではありません。そっくりな形は人を感心させる力はあっても感動に導く力はありません。では人は何に感動するのでしょう。それは人間の知性よりも感性、感情よりも情動に訴えかける形です。その形は私たちが日常生活では意識しないけれども、なんとなく心地よく豊かな気持ちになる形のことです。彫刻の授業は、これらの方法を体験的に学び、繰り返すことで身につけていくことを目的としています。

西洋画　小木曽　誠　准教授

西洋画専攻では「油絵具」主として、アクリルや水彩絵の具など多岐にわたる表現手法で制作を行っています。専攻生は約30名近くおり、皆切磋琢磨し日々制作しています。大学に入学前にしておいてほしいことがあります。是非「手」を動かして描いておいてください。身近なものでも結構です。画材も自由に、デッサンでもなんでも結構です。それが入学後皆さんの財産になりますので頑張ってください。

日本画　石崎　誠和　准教授

日本画の制作は粘りが少ない膠を展色材として描くため、重力など自然の力に強く影響を受けるため、自然の力を借りて描きます。そんな日本画素材の特性に寄り添い、アジアや日本でこれまで制作されてきた作品と対話し、歴史的に培われてきた視点を学びながら、現代の私たちの実感を表現に昇華していきます。日本画専攻室では、学生それぞれの実感から多様な表現を共に模索していきます。

漆・木工芸　井川　健　准教授

木と漆は古くから密接に関わりながら生活の中に活用されてきました。器や家具といった用途あるものから造形作品まで表現のかたちは色々とあります。制作の方法も彫る、組む、挽くなどの木工技法から、塗り、蒔絵、乾漆などの漆工技法まで幅広くあり、一つ一つが奥の深いものです。2年生でこれらの基礎技法を木工、漆工の両方共に広く学びます。3年生以降では学んだ技法を応用し、素材との関わりの中で自身の表現を見つけていきます。

窯芸・造形　田中　右紀　教授

素材と加工技術・プロセスと目的によって、日本の焼き物は著しく進化してきた。他のアジアの国々と同じように、文化や思想を表現する媒体ともなってきた。そしてそこには様々な質感も含めた「造形」が示されてきた。更に現代では、欧米の表現様式による焼き物の造形も多くみられる。このような中で焼き物の造形とその表現について基本から実践まで実験・経験と共に学ぶ。

セラミック工学　赤津　隆　教授

美術・工芸を支える、原料、成形プロセス、加飾、焼成などに関する技術の背後には、科学的な裏づけが隠れている。それらを明らかにしていくと同時に、セラミックスを中心として、美術・工芸分野で使用される様々な材料がもつ機能（可塑性、装飾性、耐久性など）を、結晶学、熱力学、物理化学など科学的観点から理解し、基礎的な知識を身につけることを通して、機能を突き詰めた先にあるものを探求する。

窯芸・造形　湯之原　淳　講師

日本で初めて磁器の生産が始まった有田。その長い伝統に培われた知識と技術がある場所だからこそ更なる表現の可能性がここにあります。伝統に埋没するのではなく、その伝統から何ができるのか、長い歴史の中で擦り落ちてきた技法や表現の隙間にはたくさんの可能性が隠されています。そこに向ける視点は、土という素材を見つめなおすことです。土という素材は、その制作プロセスにおいて様々な表情を見せます。そのような可能性を秘めた「やきもの」の世界で独自の表現を探っていきます。

窯芸・装飾成形　甲斐　広文　講師

有田キャンパスはやきものの知恵と技術が豊かに伝わる有田の地にあります。手わざの中にはその所作にも意味があります。単に技術を学ぶのではなく、なぜそうするのかを考えながら本質を学ぶ。伝統に学び、現代の感性を持って新たな伝統を作っていくことを目指しましょう。

窯芸・プロダクトデザイン　三木　悦子　講師

生活の中で使われている器とは一体どのようなものでしょうか?毎日何気なく使っているカップはどうのようにしてそのカタチや絵柄となり手元に届いたのでしょうか?そこには小さいけれども大切な意味を持って今そこにあります。そのモノやコトを丁寧に見ていきながら、次の時代のモノやコトを創り出していきます。有田には400年受け継がれてきたすばらしい焼物づくりの技術や知識、歴史、文化にあふれています。そんな有田で日々の焼物について学びます。

▶▶▶卒業研究紹介

黒木　由美
九州産業大学付属
九州高等学校出身

「nontitle」

材料　熔岩釉、磁土、陶土、顔料

私の作品は釉薬の研究の中から生まれた。私は釉薬で泡が作りたかった。泡の消える儚さと溢れだすエネルギーは自身の内面を表しているかのようだった。釉薬で作られた泡に頭の中のもやもやとした形が組合わされ、窯の中で釉が動き、土が動き、私の気持ちとリンクするような造形が出来上がった。

▶▶▶教員紹介

美術・工芸

- 荒木　博申　教授　視覚伝達デザイン
- 柳　健司　教授　ミクストメディア
- 徳安　和博　教授　彫刻
- 小木曽　誠　准教授　西洋画
- 石崎　誠和　准教授　日本画
- 井川　健　准教授　漆・木工芸
- 鳥谷さやか　講師　染色工芸
- 米村　太一　特任助教　西洋画
- 西村幸一郎　特任助教　彫刻

有田セラミック

- 田中　右紀　教授　窯芸・造形
- 赤津　隆　教授　セラミック工学
- 湯之原　淳　講師　窯芸・造形
- 甲斐　広文　講師　窯芸・装飾成形
- 三木　悦子　講師　窯芸・プロダクトデザイン

地域デザインコース

デザインするのは、地域の未来です。

地域の芸術や文化を評価できる感性を持ち、国際的視野から地域の活性化に貢献する。「地域デザインコース」が育てたいのは、そうした人材です。地域の文化資源に関わるコンテンツをデザインできる人材を育成する「地域コンテンツデザイン」、学芸員の養成を目的とした「キュレーション」、地域創生の担い手を育成する「フィールドデザイン」の３つの分野では、コンテンツデザイン、映像デザイン、情報デザイン、芸術文化、文化遺産、都市デザイン、地域マネジメント、芸術経営、異文化コミュニケーションなどの幅広い領域から、地域と世界をとらえ、未来をデザインする力を養います。

博物館実習などの実習科目においては、佐賀大学美術館や有田キャンパスなどを活用し、他大学ではできない独自の教育を行います。

教育目標

地域コンテンツデザイン

デジタルメディアやテクノロジーを効果的に活かして、地域資源をコンテンツ化し芸術やデザインとして提案ができる人材を育成します。デザインの理念や技能とともに、発想力・表現力・企画力・行動力などを伴ってローカル・グローバルを問わず社会に貢献できる力を身につけます。

キュレーション

学芸員を養成します。芸術のみならず、経営、保存科学などの知識やスキルを駆使して、地域の遺産や資料を保護・管理したり、それらを活用した企画・運営に携わったりするための応用力もつけます。

フィールドデザイン

自治体でまちづくりなどの地域創生のために働く人材を養成します。地理学、都市デザイン、文化財保護、経営などの知識を活かし、自治体以外にも企業やマスコミなどで活躍する人材の養成にも力を入れます。

地域デザインコースで学ぶために必要な能力や適性等

本コースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける４年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

学生が語る!

地域デザインコースの魅力

学びのポイント

◎芸術的な感性を身につけ地域に貢献できる人になる。
◎フィールドや美術館の実習で実践力がつく。
◎芸術表現や経営にも精通した総合的な芸術のマネジメントが学べる。
◎語学、海外研修、地域研究を通し国際的に活躍する力をつける。
◎学芸員資格が取得できる。

芸術地域デザイン学部
地域デザインコース　2年
久山　佳音
熊本県文徳高等学校出身

幅広い視野から自分の表現と芸術をとらえる

私は自分の思い描いたものを生み出したくて地域デザインコースに決めました。私はインターフェース科目でデジタル表現プログラムを受講しています。そこでは広告や撮影、編集の基礎を学ぶことができ、作品の表現の幅が広がります。また都市景観や西洋美術、地域再生などの幅広い分野を学ぶことができ、その知識で様々な視点で物事を考えるようになります。私は学芸員資格取得も目指しています。博物館を学ぶなかで芸術に対する想いが高まっていきます。自分を表現し、芸術を考えることができるコースだと強く思います。

私の合格体験記

高校１年の頃から少しずつ復習することで内容を把握しておき、３年で全学年の内容を吸収することに励みました。日頃からこつこつと積み重ねることが大事だと思います。また集中が途切れたら少し休憩するなど、無理のない計画を立てると良いと思います。目標に向かって突き進む強い心を持って頑張りましょう。

時間割のイメージ

	月	火	水	木	金
1		ヘリテージマネジメント論		基本教養科目	
2	社会政策	視覚伝達デザインⅠ	インターフェース科目	現代教育論	
3		博物館資料論		知的財産権	
4	地域再生論	映像デザインⅠ		英語C	
5	社会教育概論Ⅰ	博物館経営論			

先生からのメッセージ

杉本　達應 准教授

地域デザインコースの地域コンテンツデザイン分野では、地域資源を活かしたコンテンツの企画制作を行います。そのためにはデジタルメディアの技術や表現能力だけでなく、発想やマネジメント、プレゼンテーションの能力を獲得することが不可欠です。ここではデザイン関連の専門科目だけでなく、キュレーション分野やフィールドデザイン分野の専門科目も同時に修得でき、地域を深く理解するための文化芸術、歴史、経済などをバランスよく学ぶことができます。また学外の企業や団体と連携したプロジェクトに参画する機会もたくさんあります。本コースで学んだ学生は、デザイン、マスコミ、観光関係、公務員など多様な業界で活躍することが期待できます。

取得可能な免許・資格

所定の単位を修得することにより、卒業時に資格が得られるもの
■学芸員

想定される進路

主な就職先
●公務員（自治体の企画・広報など）
●マスコミ（出版社・放送局・新聞社・広告代理店など）
●ICT 関連企業
●映像・映画製作関連企業
●企業・団体のマーケティング担当者
●クリエイター（デザイナー、映像ディレクター、メディアアーティストなど）
●美術館・博物館の学芸員
●アートコーディネーター
●インディペンデント・キュレーター
●販売（ギャラリー、デパートなど）
●文化財・観光・まちづくり・文化振興担当者（自治体・教育委員会・財団など）
●企業・団体の社会貢献担当者

4年間で学ぶ授業

卒業単位	124

		1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目		大学入門科目 共通基礎科目「英語」 共通基礎科目「情報リテラシー」 基本教養科目（自然科学と技術、文化、現代社会） インターフェース科目			
専門教育科目	学部共通科目	**学部共通コア科目** ●地域デザイン基礎（デザイン、マネジメント、フィールドワーク） ●芸術表現基礎（絵画、彫刻、工芸） ●デザイン発想論 ●デジタル表現基礎 ●職業キャリア論 ●流通論 ●アートマーケティング ●文化経済論 ●アートマネジメント ●比較オリエンタリズム研究 ●Key Concepts in Art	●芸術文化・地域創生論（国内外地域プロジェクト事例研究） ●知的財産権学 ●地域再生デザイン学 ●アートと科学	**学部共通コア科目** ●有田キャンパスプロジェクト ●地域創生フィールドワーク ●国内外芸術研修	
	コース基礎科目	●博物館概論 ●ランドスケープ ●美術史基礎	●地域再生論 ●ヘリテージマネジメント論 ●社会政策 ●コミュニティビジネス ●Intercultural Communication and Art Ⅰ ●地域情報マネジメント演習 ●フィールドデザイン演習Ⅰ ●エリアスタディー演習Ⅰ ●経営・流通演習Ⅰ・Ⅲ ●コンテンツデザインⅠ ●視覚伝達デザインⅠ ●映像デザインⅠ ●情報デザインⅠ	●地域マネジメント論	
	地域コンテンツデザイン		●デザインプロジェクト演習 ●コミュニケーションデザイン論 ●コミュニケーションデザイン演習 ●地域ブランディング論 ●地域ブランディング演習 ●メディアアート論 ●メディアアート演習	●コンテンツデザインⅡ ●コンテンツデザインⅢ ●映像デザインⅡ・Ⅲ ●情報デザインⅡ・Ⅲ ●メディアプレゼンテーション ●デザイン実践セミナー	●卒業研究
	キュレーション	●博物館学内実習	●キュレイティング基礎 ●博物館経営論 ●博物館資料論 ●博物館展示論 ●博物館資料保存論（芸術と倫理を含む） ●博物館情報・メディア論 ●博物館教育論 ●美術史Ⅰ・Ⅱ ●美術史演習 ●工芸理論 ●キュレーター実務実践演習 ●キュレイティング応用Ⅰ・Ⅱ ●アートプロデュース論 ●アートプロデュース演習Ⅰ ●美術品流通論	●博物館学外実習 ●美術史Ⅲ ●アートマネジメント特別講義 ●アートプロデュース演習Ⅱ ●ミュージアム・マーケティング	●卒業研究
	フィールドデザイン	●風土と地理学	●考古学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ●考古学演習Ⅰ（古代以前・室内） ●地域史論Ⅰ・Ⅱ ●アーカイブズ論 ●陶磁史 ●都市空間論Ⅰ ●フィールドワーク実習 ●都市・地域空間史 ●ヘリテージマネジメント演習 ●文化財の保存と活用 ●Critical Studies in Language and Image Ⅰ	●考古学演習Ⅱ（中世・近世） ●考古学実習Ⅱ（野外） ●地域史論Ⅲ ●地域史演習 ●古文書解読演習 ●地域調査分析 ●都市空間論Ⅱ ●フィールドデザイン演習Ⅱ ●地域資源論 ●博物館の政治学 ●エリアスタディー演習Ⅱ ●地域雇用政策論 ●経営・流通演習Ⅱ・Ⅳ ●Critical Studies in Language and Image Ⅱ・Ⅲ ●Intercultural Communication and Art Ⅱ・Ⅲ ●Art in Context	●卒業研究

カリキュラムの特色

カリキュラムは大きく3つの分野に分けられ、それぞれ専門科目が用意されています。地域コンテンツデザイン分野は、映像デザイン、コンテンツデザイン、情報デザイン、メディアプレゼンテーションなど。キュレーション分野は、学芸員資格取得のために必要な科目（博物館学、博物館資料保存論など）、美術史、アートプロデュース、考古学など。フィールドデザイン分野は、都市空間論、地域調査分析、フィールドワーク、エリアスタディーなど。学生は2年次からひとつの分野を選択し、専門性を培います。それぞれの科目は、段階をおって知識や技術を深められるように必修科目と選択科目によって構成されています。経営・流通にかかわる科目や地域の文化的・歴史的特性を反映した科目、実務経験の豊富な教員が担当する科目が多く配置されていることも本コースのカリキュラムの特長です。

主な授業紹介

地域マネジメント論　西島　博樹 教授

わが国は少子高齢化社会を迎えて地域活力は減退傾向にあります。特に地方都市においてより深刻な状況です。マーケティングや経営学の理論を援用しながら、地域活性化に向けた戦略や手法を考察していきます。また、全国各地で実施されているまちづくり活動をとりあげて、その成功要因と失敗要因を分析し、地域にもっとも適応したマネジメントは何かについて学生自らが考え、解決策を導き出します。

エリアスタディー演習　山崎　功 教授

地域の視点を踏まえつつも、日本をとりまく国際関係、特にアジアの動向・歴史背景を学び、国際的・多角的な視野を身に着けます。東南アジア地域研究を土台として、九州、佐賀をはじめとした郷土・地域を、アジア、国際社会とのかかわりの中に位置づけ、広くアジア世界の政治・社会・文化を探求します。

コミュニティビジネス　富田　義典 教授

今日では、地域を地盤とする小規模、営利の追求を必ずしも第一としない企業が社会経済活動の一翼を担うようになっています。それらの企業の存在は高齢・少子化が進む地方においては、住民の社会的・経済的ニーズがかつてとは変質し、より個別化・多様化し、きめ細やかさを求められるようになることによって、クローズアップされてきています。この授業では、そうした企業類型であるコミュニティ・ビジネスの資金面、人材育成、経営管理に焦点をあて、その存在意義と課題を学びます。

地域再生論　山下　宗利 教授

中心市街地とともに中山間地域においても地域再生（地域活性化）は今日的な重要な課題です。地域再生を図るために必要な既存の関連学問分野を横断的に理解することを目指します。衰退の激しい佐賀市中心市街地や過疎化が進行した脊振の中山間地域の現状を正しく把握するとともに、各地で行われている実践的な活動を理解することにより、いかなる再生策が必要であるかを学びます。

キュレイティング基礎　石井　美恵 准教授

博物館の資料を保存するためには、資料の劣化要因を特定して、それを管理する保存科学の理論を学ぶ必要があります。キュレーションは、資料の収集、公開、活用だけでなく、ひろく人類の文化遺産の保存を考えることが大切です。また、被災した博物館や博物館の未整備な地域に対しても協力が求められている分野です。学芸員として必要なコレクションケアの基礎的知識を修得し、文化遺産の保護について国内外の事例を研究します。

コミュニケーションデザイン演習　倉成　英俊 非常勤講師（株式会社電通）

デザインに必要な発想法や構想法として価値の転換や新規の価値について講義を行い、商業デザインや宣伝、広告の現場を理解し、発想や構想表現を知ります。また、世の中のしくみや生活におけるコミュニケーションに新たな価値を生み出すための演習を行い、発想表現や企画構想を提示できることを目指します。

▶▶▶研究室紹介

佐賀大学美術館前で開催されたラテンダンス・イベント。Houghton准教授が共同設立した多文化フィットネスコミュニティでは、異なる文化・言語をもつ人々をつなぐ教育プログラムやイベントを展開し、身体運動や芸術を通して異文化コミュニケーションとコミュニティ構築を支援しています(https://www.facebook.com/stephaniesensei1/)。インストラクター:宮田一樹・Houghton Stephanie Ann、写真:千布彩夏(文化教育学部)

インターカルチュラル・コミュニケーション

Houghton Stephanie Ann 准教授

「芸術を理解し評価するための鍵となる概念」(Key Concepts in Art)は、文化や言語によって異なります。そこで異文化比較によって文化を超えてあらわれる芸術表現様式をあきらかにします。また多様な情報を結びつけることで、芸術が作りだされた過程を再構成し追体験し、芸術家の真の姿に迫ります。このように芸術論そのものが、(国際レベルに限らず個人間においても)異文化相互の対話を基本としています。こうした活動を通して、異文化コミュニケーション能力や、国際共通語としての英語で芸術の基本概念を説明し、調査し、プレゼンテーションする能力を養います。

研究室・ゼミ

映像デザイン　中村　隆敏 教授

本研究室では映像言語と時間や空間をデザインする新たな映像表現まで学びます。写真、映画、アニメーション、CG等の生成メディアとWebによる双方向視聴や立体的な投影方法、拡張現実等、デジタルの力による多様なコンテンツを概観し、スキル修得のみでなく映像による自己の表現方法を模索した作品への眼差しを大切にします。また、ショートフィルム制作は集団活動による創作に注力し、個人の内的表現とは違う創造性を体得します。商業、非商業問わず、映像メディアを実験的且つ革新的に追求する専門家を育成します。

コンテンツデザイン　土屋　貴哉 准教授

表現媒体や技法にとらわれず表現形式を柔軟に横断できる発想力とそれを論理的に構築できる分析力を養い、メディアの特性を生かした独創的な作品制作を目指します。そこでは、発想の具現化にあたり、より適した媒体・形式・技法を選択できる編集力が必要となってくるでしょう。単にモノのカタチやビジュアルをデザインするのではなく、それを感じ取る人間の知覚をデザインするという観点から、より柔軟かつ先鋭的な発想を展開しながら芸術文化や産業に貢献できるアイディアマンたる人材育成を図ります。

情報デザイン　杉本　達應 准教授

現代は、マスメディアによる発信だけでなく、多くの人々や機械から、無数の情報が飛び交っています。そうした情報をひとつひとつ把握することはもはや困難なため、大量の情報を整理し編集する能力が求められています。情報デザインとは、単に美しい表現をおこなうのではなく、現実世界の多様な情報に潜んでいる特質や相関を可視化し効果的に提示するための方法論です。研究室では、デジタルメディアやプログラミングを活用した表現の系譜や可能性についても探究していきます。

博物館学　小坂　智子 教授

博物館は、人々が多様な価値を学ぶことのできる場として、今日の社会で重要な役割をもっています。授業では、博物館を歴史的な視点から捉えつつ、現代社会の中でどのように位置づけ、価値を見出していくのかということも、考えていきます。私自身、美術館で働いていた経験から、学芸員は、対象についての研究への意欲に加え、コミュニケーション力や、どのように展示するかというプレゼンテーションに関する能力まで、多くのことが要求されるやりがいのある仕事だと考えています。

美術史　吉住　磨子 教授

美術史は基本的には既にある美術を研究する学問です。研究対象は、作品、制作者、注文主、受容者、作品を生み出した社会全体、技法・材料など多岐にわたります。20世紀後半からは、美術史は他のさまざまな学問領域から影響を受け、その方法論や研究対象は大きく広がってきてもいます。その意味で、美術史は現在、最もスリリングで、その動向から目が離せない学問の一つと言っても過言ではありません。

アートプロデュース　花田　伸一 准教授

アートを「作る人」と「見る人」とを繋ぐのがアートプロデュースの役割です。アートには美術、音楽、文学、演劇、映画など様々な分野があります。近年は鑑賞者が「見る」だけではなく人々が積極的に「関わる」ことによって作られる作品も増えており、社会の中でアートが担う役割はますます高まっています。アートを通じて人々が持つ想像力・創造力を刺激し、私たち一人一人がより喜びに満ち、生きがいを感じられる社会を築いていく仕事です。

都市デザイン　有馬　隆文 教授

これから日本の人口は大きく減少していきます。いわゆる縮退の時代です。そのような中で、人間が快適かつ安全に暮らせる環境を我々はどう提案できるのでしょうか?　その答えを見出すためには、おそらく、既存の都市の成り立ちを歴史的文脈のなかで捉え、今日の都市の個性と特徴を理解しつつ都市の住む人々の活動を読み取り、次の時代に継承される都市のデザインを探求することが必要です。都市デザインとは、人間を取り巻く環境を時空間の視点から科学する学問です。

考古学・ヘリテージマネジメント

重藤　輝行 教授

考古学は遺跡やその出土品から過去の社会、文化を解明する学問で、本研究室では九州を中心とした日本の考古学を主な研究対象としています。また、考古学等が解明する地域の歴史的な文化資源を、ヘリテージとしてマネジメントし、地域をデザインする方向性も重視します。これらの教育と研究を通じ、本研究室では博物館等の学芸員、あるいは教育委員会等の発掘調査専門職員として活躍できる人材の養成を目標としています。

アートマーケティング論

山口　夕妃子 教授

アートそのものを市場にどのように出していくのか?市場で求められているものとはどのようなものなのか?といったことを講義で考えていきたいと思います。またアートそのものだけではなく、アートの市場活動やアートを用いた地域活性化ということもあわせてマーケティング論というフレームワークの中で学んでほしいと思っています。

▶▶▶卒業研究紹介

清川　千穂
鹿児島県立松陽高等学校出身

明治大正期の日本人画家による オディロン・ルドンの摂取

明治大正期、日本の芸術家たちは、積極的に西洋美術を学び受容しました。本研究では、こうした時代背景のなか、土田麦僊ら複数の日本人画家が、フランス象徴主義の画家オディロン・ルドン(1840–1916)の作品を渡欧先で入手し、日本に持ち帰っていた事実に着目しました。ルドンは、印象派が活躍していた時代に、石版画や木炭画による「黒」の芸術、油彩やパステルによる色彩世界を展開し、神秘的な幻想世界を描いた画家です。ルドンと麦僊らの作品を比較することにより、彼らの作品におけるルドン作品の受容とその象徴性を考察しました。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- ◎ フィンランドの自然美:「ムーミン」における崇高性の視点から
- ◎ TMO佐賀による中心市街地活性化の取り組みと今後のまちづくりの展開
- ◎ 恵美須DEまちづくりネットワークの活動から考えるまちづくり
- ◎ 天草の地域振興における道の駅の役割
- ◎ 弥生時代の対外交渉
- ◎ 須恵器の出現・拡散と古墳時代の渡来人
- ◎ 史跡としての城郭の保存と現代
- ◎ University level intergroup dynamics based on skin color
- ◎ 日本・東南アジア文化交流史

(地域デザインコースの教員が指導した卒業研究です)

▶▶▶教員紹介

地域コンテンツデザイン

- **中村　隆敏** 教授　映像デザイン
- **土屋　貴哉** 准教授　コンテンツデザイン
- **杉本　達應** 准教授　情報デザイン

キュレーション

- **小坂　智子** 教授　博物館学
- **吉住　磨子** 教授　美術史
- **石井　美恵** 准教授　アートキュレイティング(美術資料保存論)
- **花田　伸一** 准教授　アートプロデュース

フィールドデザイン

- **山下　宗利** 教授　都市地理学
- **山崎　功** 教授　エリアスタディー
- **有馬　隆文** 教授　都市デザイン
- **山口夕妃子** 教授　アートマーケティング論
- **西島　博樹** 教授　地域マネジメント論
- **富田　義典** 教授　労働経済・雇用問題

キュレーション・フィールドデザイン

- **重藤　輝行** 教授　考古学・ヘリテージマネジメント
- **Houghton Stephanie Ann** 准教授　インターカルチュラル・コミュニケーション